

中国観照（第五回）

ウクライナ危機と中国の立場

——国益拡大を慎重に模索する

矢吹晋（二一世紀中国総研ディレクター）

五月二五日に行われたウクライナ大統領選挙では富豪ベトロ・ポロシエンコが圧勝した。チョコレート製造、テレビ局、造船など幅広く事業を行うポロシエンコは、この国で最も裕福な人物の一人といわれる。ウクライナ西部を地盤とするポロシエンコは、ソ連崩壊後に巨額の財をなしたオリガルヒ（新興財閥の代表）の一人で、ヤスコビッチ体制下では経済大臣を務めた。彼の目標はウクライナをEU（欧州連合）に加盟させることで、プーチンのウクライナの連邦化を拒絶している。この大統領選挙によって、ウクライナの政治状況は安定に向かうのではなく、国家の分裂が深まる可能性が強いと専門家は見ている（たとえば在独ジャーナリスト・熊谷徹「ウクライナ危機の勝者は中国 大統領選の結果を受け、東西分裂は深刻化」『日経ビジネス』<http://business.nikkeibp.co.jp/article/world/20140528/265619/r1=ncnt>、下斗米伸夫「ウクライナをめぐるロシアの政治エリート」（一九九二〜二〇一四）『ロシア東欧学会年報』二〇一五年三月）。

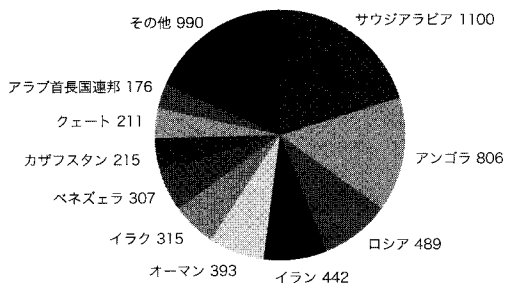
ドイツやEUから見ると、親EU派の候補が勝ったことは吉報であり、フランク・ヴァルター・シュタインマイヤー外務大臣は、「ロシアのプーチン大統領がこの選挙結果を尊重することを望む」という声明を発表した。だが政府軍の実力行使によって、分離独立派の血が流された結果、親EU派に対する彼らの怨嗟はさらに深まり、対立はますます深刻化しつつある。ところで五月二一日、ロシアの国営企業ガスプロムと中国石油天然気集団（CNPC）の代表は、上海を訪問中のプーチンと習近平が見守る中で、天然ガス供給に関する契約に調印した。ガスプロムは、二〇一八年から三〇年間にわたり、毎年三八〇億ドルの天然ガスをバイプラインでシベリアから中国の北東部へ供給する。ロシアは中国から三〇年間に総額四〇〇億ドル（現レートで約四〇兆八〇〇億円）を受け取る。上海交渉の焦点はガス価格だが、合意した価格は、公表されていない。総額四〇〇億ドルを三〇年間の供給契約年で割ると、

一〇〇〇m当たりの単位価格は、三五〇ドルになる。ちなみにEU諸国のガスプロムに対する支払いは、二〇一四年平均で三八〇ドルであった。中国はEUよりも約八%安くロシアからガスを買うことになったことになる。つまりウクライナ危機のおかげで、「中ロ接近がもたらされ、中国は漁夫の利を得た」（熊谷徹）。

現在のところ中国に対する最大の天然ガス供給国はトルク

図1 中国の原油供給先 2012年

単位：1000バレル/日



出所：Military and Security Developments Involving the People's Republic of China, A Report to Congress, Pursuant to the National Defense Authorization Act for Fiscal Year 2010.

中国の原油供給先

国	1000バレル/日	輸入原油の構成比
サウジアラビア	1100	20
アンゴラ	806	15
ロシア	489	9
イラン	442	8
オーマン	393	7
イラク	315	6
ベネズエラ	307	6
カザフスタン	215	4
クウェート	211	4
アラブ首長国連邦	176	3
その他	990	18
計	5444	100

出所：米国

米伸夫、NHK新書、二〇一四年）といわれるが、これはブーチンにとっても、大きな利益だ。二〇一四年の中口貿易額は一〇〇億ドルを突破すると見られるが、EUへの輸出減を中国へのガス輸出増でカバーする戦略の一環だ。ロシアのガス輸放量の中でEUは約七六%を占めており、これを根拠にEUは経済制裁を進めているが、中国への活路を切り開くことは、制裁の効果を減殺することで、ブーチンを救済し、中国にとっては、エネルギー供給の多角化を促進することになる。

メニスタンだが、今回の契約調印によって、ロシアは中国への最大のガス供給国となる。さらにロシアから中国の北西部へガスを供給する第二のパイプラインの建設も計画されている。ロシアから見ると中国はEUに次ぐ貿易パートナーだが、今回のガス供給契約によって、中口間の貿易額は飛躍的に増加し、EUとの差は急激に縮まる。『ブーチンはアジアを目指す』（下斗

ウクライナは旧ソ連諸国のなかで中国にとってロシア、カザフスタンに次ぐ、第三の貿易相手国であり、ウクライナから見ると、中国は第二の貿易相手国である。ウクライナ危機が爆発する前に、中国は約一〇〇億ドルの借款を提供していた。二〇一三年二月、ヤヌコビッチ大統領が訪中して八〇億ドルの中国投資を要請した。中国の対東欧投資一九〇億ドルのなかでウクライナ向けのものは最大であり、これはウクライナの

戦略的重要性を示す。さらに中国はウクライナの農地をリースする契約を結んでいる。ウクライナは世界三大「黒土地帯」の一つであり、全世界の「黒土地帯」の四〇%を占めて、歴史上「欧州の食糧庫」と呼ばれてきた。現在も世界第三の食糧輸出国である。世界最大の人口をもち、「民は食をもつて天となす」の古語をもつ中国は由来、ウクライナの食糧庫に注目してきた。

ウクライナと中国の軍事協力

旧ソ連が解体されてウクライナが独立国 (Declaration of Independence of Ukraine) になったのは一九九一年八月二十四日であった。中国は九二年一月四日、ウクライナと国交を樹立した。これはウクライナから見ても早く、独立を承認した国の一つだ。九二年五月、クリミア半島は勝手にウクライナからの独立を主張したが、中国外交部は九四年に声明を発表して「クリミアはウクライナの一部分だとして、ウクライナの領土保全を支持した」(顧志紅『烏克蘭的昨天和今天』、中国社会科学院东中亚研究所、一九九八年、所収)。中国政府は九四年一二月に声明を発表し、ウクライナに対して核兵器を使用しないこと、ウクライナが核の脅威を受けたときには同国の安全を保障することを約束した(中国外交部「两国关系的回顾」二〇〇四年七月一日)。

二〇一四年、クリミア半島で住民投票(公投)が行われ、

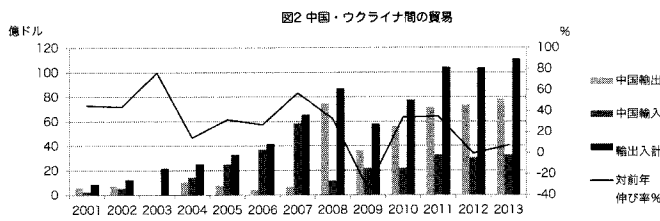
ウクライナを離脱してロシア連邦に参加することを決めた(BBC中文網、二〇一四年三月一六日)。国連安保理は、二〇一四年三月、クリミアの住民投票決議案を裁決したが、中国代表は「棄権票」を投じた。安保理草案の裁決が対立の争点になるのは、国際社会の利益に合わない」と外交部スポークスマン秦剛が記者会見で答えた(「就安理会表决乌克兰克里米亚公投问题决议草案答记者问」中国外交部、二〇一四年三月一六日)。中国はまたウクライナにおける武力衝突が市民への暴力となっていることは、各地区人民の利益にならないので、「政治解決」方式でウクライナ問題を解決すべきだと主張している(中国駐联合国代表刘结一大使安理会上发言、中国外交部、二〇一五年一月二六日)。

これが国際政治の場における中国政府の公式の立場だが、その基本にあるのは、EUとロシアとの間で、慎重にバランスをとりながら国益を追求する立場にはかならない。中国から見て対EU貿易は、米国に次いで二位であり、また前述のようにロシアとの原油・ガスの供給も経済発展の生命線に関わるものだ。

二〇一三年の統計を見ると、図2のように、中国・ウクライナ間の貿易は往復で一一〇億ドル、ウクライナから中国への輸出は三二・七億ドル、中国からウクライナへの輸出は七八・四億ドルで、中国は四五・七億ドルの黒字を稼いでいる。

ウクライナの武器輸出

さて、これらの通常の貿易とは別に、特に注目を要するのは、ウクライナから中国への武器輸出である。ウクライナの軍事工業はつとに有名だが、その最大の顧客は中国である。中



出所：顧心編、金威「烏克蘭危機與中國海外利益」、『中國與國際關係學刊』2014年第2号

中国向け輸出品は鉱石、鉱砂のほか動植物の油脂が中心で、中国の輸出品は、電気設備と機械器具である。

中国はキエフ市の外環状線とドニエプル河の橋の建設プロジェクトのために、二五〇〇万円の無償借款を提供した(二〇〇九年七月三日)。二〇〇九年にウクライナで鳥インフルエンザが大流行したときには、中国政府は三五〇万円を提供して、診断設備、マスク、眼鏡、手袋などの物資を届けさせた(China to allocate \$500,000 to Ukraine to fight epidemic of flu. Interfax-Ukraine, Kyiv Post, November 6, 2009)。

国とウクライナの軍事協力について「ウクライナなかりせば、中国の国防は成就できなかった」とする記事さえある(「解析 烏軍軍事合作——没乌克兰就没中国的国防成就」『環球網』二〇一四年一月一五日)。中国はウクライナのモートル・シチ(Motor Sich 中訳、馬達西奇公司)から二五〇個の航空機用、船舶用ジーゼルエンジンを輸入して、空軍の訓練機などに装置した(「北京趁乱挖基輔牆角、航空精英都來投奔中国」『復興網』二〇一四年九月五日)。

産空母建造のモデルとしたことは後述する。欧州で野牛級と呼ばれるエアクッション上陸揚陸艦の意義も大きい(後述)。

ロシアの軍事専門週刊誌「軍工信使」二〇一四年四月一六日号によれば、ストックホルム国際平和研究所の報告に基づいてウクライナは二〇一三年に世界の武器供給大国ランキングで八位であったとしている。二〇〇九―一三年、ウクライナの軍事工業の武器輸出は世界総額の三%を占めた。ウクライナの武器軍事装備の輸出面で、中国市場向けのシェアは二一%を占め、パキスタン八%、ロシア七%と続いた。今後ウクライナは東南アジアとアフリカ市場のシェアを拡大する計画である。

一四年三月、ウクライナ国防工業コンツェルンは、このグループ所属のある企業がインドネシア海軍との間で、五台のBT R-4装甲兵員輸送車の契約を結んだ。もしこの契約にインド

ネシアが満足するならば、同国防防部は今後さらに五〇輛を買いつける計画である。交渉の過程でインドネシア政府は、ロシアではなく、ウクライナとの合作を気に入っている。一四年初め、ウクライナ国防工業コンツェルンのある企業は、アフリカ某国に対して五〇輛のT・64BV・1型主戦戦車を売る契約を結んだ。当局が確認した情報ではないが、専門家の推測では、この契約はコンゴ民主共和国と結んだ模様である。同社の幹部によれば、「これは世界の戦車・装甲車市場において、ウクライナ製品が重要な一步を踏み出したことを意味する」。専門家によれば、ウクライナと欧州の現実の軍事技術協力は、ウクライナ国防工業の潜在能力を満たすものではなく、ウクライナはこの領域を積極的に開拓しようとしている。

二〇一三年にクロアチア国防防部はウクライナから七機のミグ・21ピース爆撃機を買う契約を結び、一四年中に引き渡しが行われる。いま五機のミグ・21をオデッサの航空機修理工場で、改装とレベルアップを行っている。同時にウクライナはNATO諸国との軍事技術協力が強化している。一四年二月、米国企業との間で、ウクライナ軍が四艘の巡洋艦を売る契約を結んだ。西側専門家によれば、遠くない将来に、ウクライナの軍事技術協力は、主として欧州と米国に移転し、ロシアの軍事技術に対する依存から脱するものとみている。二〇〇八―一二年に、ウクライナが輸出した武器と軍事装備の重点は、主戦戦

車、装甲戦車、作戦航空機、ヘリコプター、ミサイル兵器と各種小型武器であった。この間にウクライナから輸出された製品は主としてソ連解体後に得た技術装備であり、各型BTR・3装甲輸送車と一連の改造型T・72戦車は例外に属する。ウクライナの輸出相手は、主としてアジア、アフリカ、中東諸国、旧ソ連圏諸国に加えて、軍事工業の高度に発達した国にも少量の各種技術装備と小型武器を輸出している。そこには米国、英国、イスラエル、南アフリカが含まれる。この間に、ウクライナの武器を輸入した大国には、アゼルバイジャン、チャド、コンゴ民主共和国などが含まれる。

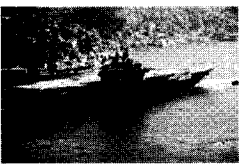
空母「ワリヤーク」号について

空母ワリヤーク号は、一九八五年末にウクライナの黒海造船所で建造が始まった。八八年一月二五日進水したが、当時の名は「リガ」号であり、九〇年七月に「ワリヤーク」号と改名された。ところがソ連解体の衝撃に遭遇し、建造工事は中断された。ソ連を継承したロシアは経済困難のために、ワリヤーク号を九五年に債務償還の代替品としてウクライナに引き渡した。九七年から九八年にかけて、マカオのあるカジノ経営会社（中国返還前より営業）を通じて競売に参加させ、競り落とすことに成功した。九九年六月、ワリヤーク号は中国に曳航された。曲折ののち、大連に着いたのは、二〇〇二年三月三日で

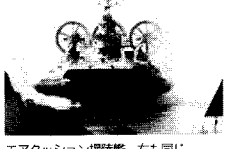
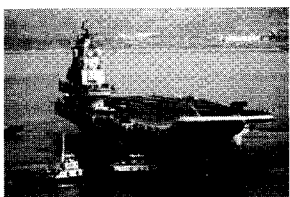
あった。ワリヤーグ号は改装と修理を経て、二二年九月二五日「遼寧」号と改名され、中国海軍に編入された。遼寧号は武器は搭載されていなかったのも、もっぱら訓練用として用いられた。中国にとっては、初めての空母なので、象徴的意味は大きく、中国自身が空母を設計する上で、重要な参考となった。

「もしウクライナがワリヤーグ号の競売をしなかったならば、中国が空母をもつ日は、はるかに遅れたことであろう」と顧心陽、金威（ともに国際関係学院院生）が書いている（『烏克蘭危機与中国海外利益』『中国与国际关系学刊』二〇一四年第二号）。ソ連解体後の一時期、ウクライナを含めてロシア連邦は、混乱のさきわみであり、多くの軍事工業専門家や技術者たちは失業し、路頭に迷ったが、これを救済したのが中国、シンガポール、イスラエルなどだ。ウクライナの専門家たちは手厚くもてなされ、その見返りに最新の技術を提供した（『解析中烏軍事合作・没乌克兰就没中国的国防成就』『环球网』二〇一四年一月二五日）。

ワリヤーグ号のケースは、中ウ軍事協力の一例にすぎない。ウクライナはさらに中国が戦闘機やその他の軍事装備に必要な発動機の製造を助けた。ウクライナの発動機生産は、中国のジェット戦闘機や他の航空機製造にとって重要な役割を果たした。空母と戦闘機エンジンのほかに、中国はウクライナからGT・25000大効率船舶用エンジンを導入した。中国が



中国へ曳航されるワリヤーグ号（上）
新装なった遼寧号=ワリヤーグ号（左）。



エアアクション機エンジン、右も同じ



ターボファンエンジン（左）と搭載の戦闘機（右）

出所：『没有乌克兰就没有中国现代国防成就（网易 军事）http://war.163.com/』

二〇世紀八〇年代末に二艘の052A型ミサイル駆逐艦を製造するに際して用いたのは、米国製LM・25000ジーゼルエンジンであった。当時は米中国交正常化後の「蜜月期」であったからだ。

しかし一九八九年の天安門事件以後、米国など西側は対中制裁を行い、武器輸出を禁止して今日に至る。LM・25000

ジーゼルエンジンも禁止対象であった。米国の禁輸は中国の二艘の052A型駆逐艦建造にとって打撃となった。そこでウクライナのGT・25000ジーゼルエンジンに切り換えてようやく二〇〇〇年に052B型駆逐艦の建造に成功した。ウクライナの協力はまさに「雪中送炭」であった。

その後、ウクライナはGT・25000技術を中国に提供した。それによって中国国産のQC・280ジーゼルエンジンが生産できた。海軍は近年大量のQC・280ジーゼルエンジンを備えた052C、052D型防空駆逐艦を建造し、大型水上護衛艦の面で日本の海上自衛隊に追いつくことができた。

日中軍事摩擦あるいは衝突の中で、ウクライナの提供した重要エンジンは大きな役割を果たしている。中国がウクライナから獲得した重要軍事装備にはAL・222系列のターボファンエンジンと、野牛^①式大型エアクッション揚陸艦が含まれる。AL・222ターボファンエンジンは洪都公司のL・15高級訓練機にも採用されている。空軍はすでにL・15型を次代の高級訓練機とし、編号JL・10（教練10）とすることを決めている。野牛^②式大型エアクッション揚陸艦は、対尖閣諸島上陸作戦というプラス目的のために効果的に用いられている。このほか、中国はパキスタンのために作ったMBT・2000主戦戦車にも6TD・2エンジンを使ったがこれもウクライナが提供したものだ（杜松涛 什么样的乌克兰符合中国利益勝

訊网・军事频道・二〇一四年三月六日、<http://news.qq.com/a/20140306/015643.htm>。

中・ウの戦略的協力関係

中・ウ軍事協力で利益を得たのは中国だけではなく、ウクライナもまた中国への武器売却により、大量の資金を獲得した。双方はまさに「ウィンウィン（双贏）」局面にある。

二〇一三年二月五日に署名された「中華人民共和国和烏克蘭友好合作条約」は、もしウクライナが「核侵略の脅威に直面する」ならば、「中国はその安全を保障する」と定めている（「中華人民共和国和烏克蘭关于进一步深化战略伙伴关系联合声明」二〇一三年二月六日、中国外交部网站、http://www.fmprc.gov.cn/mfa_chn/gjhdq_603914/gj_603916/oz_606480/1206_607496/1207_607508/1106143.shtml）。

両国が良好な軍事安全保障の関係を保持するならば、中国の「海外利益」の開拓に有利なものとなるう、と見るのが中国の見方だ。

経済、軍事、安全保障のほかに、ウクライナの戦略地位、すなわち地政学にも留意すべきであろう。地政学から見ると、ウクライナは黒海北岸に位置し、東隣はロシアで西はポーランドに接している。中東欧の中心地帯に位置する。米国を頭とする西側地政勢力とロシアを頭とする地政勢力との対峙する地

帯である（汪金国、刘海、古阿姆〈地缘政治力量较量的产物〉《当代世界》二〇一〇年第五期）。冷戦以来、中東欧地区は地政勢力の衝突する重要地帯であった（龙静〈变动的地缘政治与中東欧地区〉《俄罗斯中亚东欧研究》二〇〇八年第二期、<http://euroasiacass.cn/news/126874.htm>）。

英国の地政学者（Halford John Mackinder）は、一九〇四年に書いた本で、ユーラシアの心臓地帯（heartland）と呼んで、ユーラシアの心臓部を支配する者が東欧を支配すると指摘した。ウクライナは二大地政勢力の中心にあり、ブレジンスキーは地政勢力の「支軸国」の二つと呼んだ（*The Grand Chessboard: American Primacy and its Gestrategic Imperatives*, New York, Basic Books, 1997. 邦訳『ブレジンスキーの世界は、こう動く——21世紀の地政戦略ゲーム』一九九七年、中訳『大棋局——美国的首要地位及其地縁戦略』中国国際問題研究所訳、上海人民出版社、一九九八年）。

ウクライナはもし中間の道路を歩むならば、キッシンジャーの言ったようにロシアと西側の「橋梁」になる（Henry A. Kissinger, "How the Ukraine crisis ends," *The Washington Post*, Mar 5, 2014）。中国とウクライナの距離は遠いが、ウクライナがもし中国に対して友好の態度をとるならば、中国と西側とロシアを結ぶ「橋梁」となり、かつ中国から欧州へ向かう門戸となる、と中国は期待する。

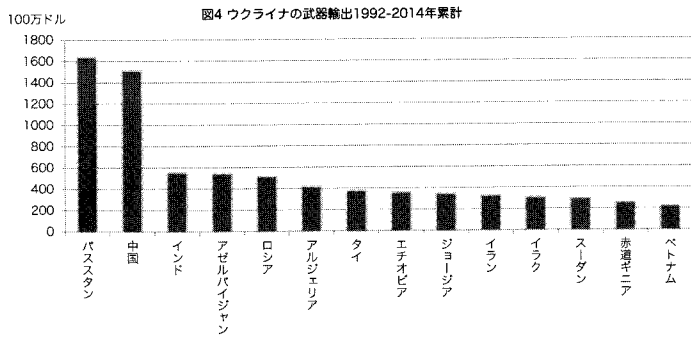
ウクライナの武器輸出は、一九九二～二〇一四年に累計総額約一〇五億ドルで、国別に見ると、パキスタン一六億ドル、中国一五億ドル、インド五・四億ドル、タイ三・七億ドル、ベトナム二・一億ドルなどであった。

同じ一九九二～二〇一四年の中国の武器輸出は、総額約一九三億ドルで、国別に見ると、パキスタン七三億ドル、ミャンマー二三億ドル、イラン二〇億ドル、バングラデシュ一六億ドル、タイ九・七億ドルなどであった。

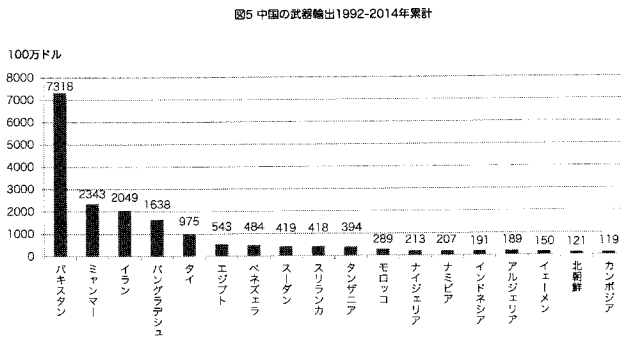
二〇一三年末、ウクライナ危機が爆発する前、ウクライナはEUとロシアのいずれにも傾かず、中立維持の立場から利益を得て、中国もまた利益を得てきた。ウクライナと中国にとっての「海外利益」とは以下の通りである。ウクライナにとっては中国と巨額の支付能力をもつ欧州巨大市場との橋梁である。中国にとっては先進軍事装備と技術を導入する源泉である。これは中国が中東欧戦略を展開するカギである。

中国から見たウクライナ

中国から見たウクライナの利害得失を整理してみよう。ウクライナは西欧の巨大市場に通ずる大門であり、中国にとつてまさに「鉄鋼とシルクの道」を通じて鉄道貨物の輸出を拡大できる窓口だ。ウクライナの農地は中国の食糧輸入の保障となるので、すでに広大な農地を租借する計画を展開中である。両



出所: ストックホルム国際平和研究所 (SIPRI Arms Transfers Database) <http://www.sipri.org/databases/armstransfers>



出所: ストックホルム国際平和研究所 (SIPRI Arms Transfers Database) <http://www.sipri.org/databases/armstransfers>

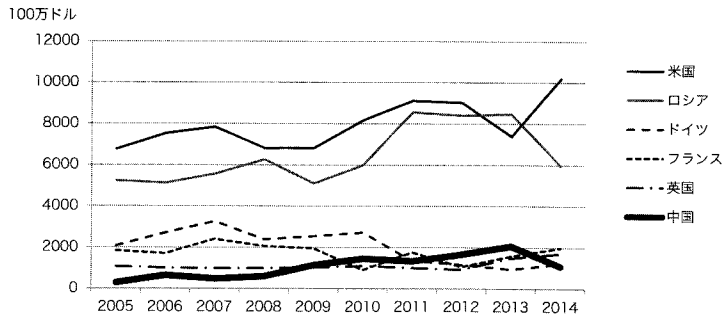
国の軍事協力は密接であり、ウクライナは中国の戦闘機エンジンの開発のために協力している。これらの戦略目的のために、中国はウクライナに対して一〇〇億ドルの借款を決定し、その

後さらに八〇億ドルの民間投資を決定している。中国とウクライナの関係は、EUとウクライナの関係とは異なるものだ。EUから見てウクライナの最も重要な意味はエネルギーの安全確保であり、ロシアが折々「油断という武器」を

ちらつかせて、西欧に脅威を与えることから免れるために、ウクライナの地位を考えている。これに対して、ウクライナから見た中国の意義は主として軍事協力でシルクロードの建設である。これらの長期の利益を実現するうえで肝要なのは、ウクライナが他の大国と衝突しないことである。たとえば軍事協力について見ると、EUは中国に対して武器禁輸を実行している。この意味ではウクライナがEUに加盟することは、中国から見望ましい選択肢ではない。EUに加盟して拘束を受けるのではなく、自由な立場で中国に対して軍事協力をを行うウクライナこそが望ましいことは明らかだ。ではウクライナから見ると中国とは何か。

二〇一三年二月、時のヤヌコビッチ大統領は、超多忙な身を押しつけて中国を訪問したが、これは明らかに借款を求める旅であった。誰でもどんな国でも、カネに困ったときに貸してく

図6 武器輸出六大国 2005-2014年



出所：ストックホルム国際平和研究所 (SIPRI Arms Transfers Database) <http://www.sipri.org/databases/armstransfers>

れるのは、真の友人であり、友好国なのだ。中国としては、EUに参加しないウクライナを希望するだけではなく、心情的には、親ロシア勢力を支持したい気持ちもある。ところがここにも内部矛盾がある。クリミア併合のような形が公的に容認されるならば、台湾独立や他の少数民族地域の独立あるいは他国への併合の論理を認めることにつながる。これも断固として避けて中国の統一、

すなわち領土保全を全うしなければならない。ロシアに媚を売って、ウクライナ国民の感情を損ねたり、EUの対中国イメージを悪化させることも、避けなければならない。

中ロ二国間貿易額は、いまや九〇〇億ドルに増えて、ロシアから見ると中国は連続四年にわたってロシアの第一の貿易相手国である。中国・ウクライナ間貿易は一〇〇億ドルだから、対ロシア貿易よりは少ないが、その背後には、EU世界が控えているので、一〇〇億ドルという数字からすべてを判断するのは軽率だ。こうして中国のスタンスは微妙だ。心はロシアに傾き、心底で密かにロシアの出兵干渉さえ期待しつつ、ウクライナの急な変化は望まない。ウクライナとの友好関係を発展させてより多くの軍事兵器を輸入したい。

他方でEUとロシアの勢力均衡の点からいえば、いずれとの関係も距離を保つことによって中立の立場を堅持し双方の誤解・疑心を招くことは避けた。こうして、EUとロシアとの間での国際的なバランスに留意しながら、ウクライナから新鋭兵器を必要だけ輸入し国防を整えたい。そのためにこそ、ウクライナのEU加盟反対を表に出して不興を買うことのないように配慮しながら、ウクライナのEU非加盟の現状維持を期待し、そのような大国外交を計る——これが中国流の「国益最優先」路線であろう。

第4期
2015
9月号

変革のための総合誌

情況

<巻頭論文>

塩川伸明・矢吹晋

<特集:ウクライナ危機(第1回)>

- 横手慎二 ウクライナ危機—ロシアはどこに行くのか
- 矢吹 晋 ウクライナ危機と中国の立場
- 塩原俊彦 ウクライナ危機と世界:中国の出方
- 木村英亮 ウクライナとクリミア

<連載>

室伏志畔 列島王朝交替史試論1 出雲王朝の変遷



学生ハリスト実行委員会 学生ハリスト宣言
 松平直彦 9・6 安倍たおせ!新宿デモへ
 渕上太郎 経産省前テント裁判・控訴審陳述書